

## 巻頭言

本学紀要の第三号をお届けする。世に「三号雑誌」なる言葉があり、終戦直後に流行った言い方をすればカストリ雑誌ということになる。最近は物資も豊かになり、マーケティングも発達しているのでこのような言い方は「死語」になって久しいが、なお初めの志を貫き続けることが難しいのは同じだろう。

さて我々の紀要が号を重ねるにつれて一定の方向性がなんとなく出てきたのは喜ばしいことであると思う。初めから高い志があったというわけではなく、とにかく初めて見ようという姿勢であったが、様々な論稿が出てくる中で研究者相互の交流、あるいは周辺領域との学際的な接触などがあり、いろいろな刺激を相互に与えているのではないかと自負している。

本号の論文の中にもあるが、観光あるいは観光学というのはまだ発展途上の領域であり、さまざまな形があり得るし、しかもその領域が日々拡大していることを痛感する。さらに我が国が被った未曾有とはいわないがあまりにも大きな災害から復旧復興するにあたって観光が担うべき役割の大きさを思う時、観光は「魂の基幹産業である」と言っても良いのではないかとさえ思っている。

領域が広がれば広がるほど他との接触が増えるのは学問領域だけの話ではない。他分野と接触し、お互いに刺激を受け、さらに前進があることを願う次第である。

神戸夙川学院大学 学長代行 吉島一彦

神戸夙川学院大学 紀要 第三号目次

1. 観光の主要概念 小槻文洋、原一樹、伊多波宗周
2. 人々の中の遺跡への教育的ダークツーリズム 小槻文洋
3. プルードン思想の展開における二月革命期の実践的思考の意義について 伊多波宗周
4. 内包量から思考へ 原一樹
5. 熱田集落葬送儀礼 河本大地、高原智子
6. 孫子の基本思想 澤山明宏
7. 日本市場は特殊なのか 内藤敏樹